

丸亀城物語

2022 年 11 月 25 日

我部山民樹

1. はじめに

石垣の名城と言われる**丸亀城**（まるがめじょう）は讃岐国、現在の香川県丸亀市にある。別名、亀山城（かめやまじょう）、蓬萊城（ほうらいじょう）ともいう。**現存 12 天守（*1）**の中で一番小さな天守を持ち、**日本百名城**にも選ばれている。

山麓から山頂まで 4 重に重ねられ、合わせると 60 メートルになり、総高としては日本一高く、三の丸石垣だけで一番高い部分は 22 メートルある。誤解されやすいが、あくまで総高としての日本一であり、単体としての日本一高い石垣は実測 33 メートルの大坂城で、僅差で約 30 メートルの上野城が続いている。

現存 12 天守のうち、大手門と天守の両方が現存しているのはこの丸亀城と、弘前城と高知城のみである。

丸亀城を本城とした丸亀藩（まるがめはん）は、讃岐国（香川県）の西部を領し、藩主は生駒家、山崎家、京極家と続き、それぞれ藩主独特の城下町を形成し、1871 年に廃藩置県を迎えた。

*1. 現存 12 天守

「現存天守」とは、江戸時代までに建てられ、修復されながら現在まで残っている天守のことである。日本全国には、弘前城、松本城、丸岡城、犬山城、彦根城、姫路城、松江城、備中松山城、丸亀城、松山城、宇和島城、高知城、の 12 城しかない。

丸亀城にまつわる出来事をまとめてみた。

2. 丸亀城にまつわる主な出来事

年代	主な出来事	藩主（城主）
室町初期 （1336 年～）	守護大名・細川頼之（ほそかわよりゆき）の家臣で細川四天王の一人と云われた奈良元安（ならもとやす）が、亀山（丸亀）に砦を築いたのが始まりと言われている。	

	その後、土佐を統一した長曾我部元親（ちょうそかべもとちか）が阿波・讃岐への攻撃を開始。そのため、讃岐・聖通寺城（別名・宇多津城、1467 年～1469 年間に築城）を居城としていた奈良元安は城を捨て阿波へ逃れる。	
1585 年	豊臣秀吉による四国攻めで長曾我部元親が降伏し、土佐一国が安堵されると、秀吉家臣の仙石秀久（せんごくひさひで）に讃岐一国が与えられ、聖通寺城（宇多津城）あるいは高松城に入城した。	讃岐国領主・仙石秀久
1587 年	仙石秀久が戸次川（へつぎがわ）の戦い（島津勢と豊臣勢の戦い）で敗退し、所領を没収され、追放されてしまう。豊臣政権の中老・生駒親正は秀吉より讃岐国 17 万 6000 石に移ることを命じられる。居城を引田城とするが、後に聖通寺城に移す。	讃岐国領主・生駒親正
1588 年	生駒親正は高松城の造営を開始する。	同上
1597 年	支城・丸亀城の造営を開始する。築城に伴い、御供所町、西平山、北平山の三浦と呼ばれるエリアと、南条街、本町、塩飽町のエリアを基軸に城下町を形成する。	同上
1602 年	丸亀城がほぼ完成し、生駒親正の息子・一正の居城となる。	城主・生駒一正
1615 年	徳川幕府の一国一城令で、丸亀城は廃城となる。	
1634 年	将軍家光の命で丸亀藩の曲垣平九郎（まがきへいくろう）が馬で愛宕山の急な石段を上り降りし、家光から「 日本一の馬術の名人 」と讃えられ、以後「出世の石段」と呼ばれるようになる。（*2）	
1640 年	生駒騒動（*3）により生駒氏は改易される。	
1641 年	山崎家治が生駒氏に代わり、5 万 3 千石讃岐国丸亀藩の領主となり、入国する。	領主；山崎家治

1642 年	(高松藩 12 万石には水戸藩主徳川頼房の庶長子松平頼重が生駒氏に代わり、入封する。)	
1643 年	一国一城令で廃城となるはずだった丸亀城だが、山崎家治が江戸幕府から許可を得て改修を行なう。	
1648 年	山崎家治死去	山崎家治 →俊家
1651 年	山崎俊家死去	山崎俊家 →治頼
1657 年	山崎治頼死去	山崎治頼
1658 年	山崎氏が 3 代にてお家断絶となり、京極高和（きょうごくたかかず）が、播磨「龍野城」より 6 万石で入国し、城主となる。（以後、明治まで京極氏が 7 代の城主を務める。）	初代藩主；京極高和
1660 年	天守、完成	同上
1662 年	京極家初代藩主・京極高和、死去	第 2 代藩主；京極高豊
1670 年	丸亀城大手一の門、二の門を南から北へ移築する。	同上
1673 年	丸亀城の大改修が完了。現存する石垣の大半はこの改修の際に完成したものである。	同上
1688 年	下金倉村の中洲（現丸亀市中津町）に別邸をつくり、「万象園」と名づける。	同上
1694 年	・第 2 代藩主・京極高豊、死去 ・高豊の庶子・京極高通に多度津 1 万石を分け、多度津藩（*4）とする。	第 3 代藩主；京極高或（たかもち）
1705 年	初めての藩札を発行する。	同上
1724 年	第 3 代藩主・京極高或（たかもち）、死去	第 4 代藩主；京極高矩（たかのり）

1763 年	第 4 代藩主・京極高矩（たかのり）、死去	第 5 代藩主・京極高中
1781 年	うちわの製造が藩士の内職として盛んに奨励され始める。（*5）	同上
1794 年	藩学校正明館を創立する。	同上
1811 年	第 5 代藩主・京極高中、死去	第 6 代藩主・京極高朗（たかあきら）
1838 年	金毘羅街道の一つである丸亀街道の起点の目印として、江戸に住む人々の浄財により、太助灯籠が作られる。（*6）	同上
1869 年 （明治 2 年）	版籍奉還により、「丸亀城」は陸軍省の所轄となる。	同上
1871 年	廃藩置県により丸亀藩は丸亀県となる。	同上
1873 年	高松県と丸亀県が合併されて香川県が設置される。	同上
1874 年	第 6 代藩主・京極高朗（たかあきら）、死去。	第 7 代藩主；京極朗徹（あきゆき）
1882 年 （明治 15 年）	第 7 代藩主・京極朗徹（あきゆき）、死去	最後の藩主
1919 年	丸亀市が山上部を借地し、亀山公園として開設（現在は城跡の全域が国の史跡に指定されており亀山公園となっている。）	
1943 年	天守が国宝保存法に基づき旧 国宝 に指定される。	
1950 年	天守の解体修理が行われる。この記念行事として第 1 回の丸亀お城まつりが開催	

	される。また、文化財保護法施行により 天守は 重要文化財 となる	
1953 年	城跡の全域が 国史跡 に指定される	
1957 年	大手一の門・大手二の門 が 重要文化財 に 指定される	
1972 年	丸亀城や京極氏に関わる史料を展示する 丸亀市立資料館が開館する	
2006 年	日本 100 名城 （78 番）に選定される	
2018 年	見返り坂に手すりを設置	
2018 年	豪雨や台風 24 号の影響などにより、丸 亀城跡の南西部に位置する帯曲輪（おび ぐるわ）石垣と三の丸坤櫓（ひつじさる やぐら）跡石垣の一部が崩落。改修工事 の費用はおよそ 35 億円で、2025 年完成 を目指す	

*2. 出世の石段

勝軍地蔵で参詣者を集めた愛宕山だが、現在も江戸時代と変わらないのが、
拝殿へと上る斜度 37 度という急な石段。これが通称「出世の石段」。
この石段が「出世の石段」といわれるようになったのは、江戸時代に遡る。

1634（寛永 11）年、3 代将軍、徳川家光が将軍家菩提寺の芝・増上寺に参詣
の帰路、愛宕山に咲く梅に気づき、「誰か、馬であの梅を取って参れ！」と
命じる。

居合わせた多くの武将が怯（ひる）むなか、**四国・丸亀藩の曲垣平九郎**（ま
がきへいくろう）が馬で急な石段を上り降りし、家光から「日本一の馬術の
名人」と讃えられた。その名声が知れ渡ったことから「出世の石段」呼ばれ
るようになった。丸亀藩の曲垣平九郎は実在の人物だが、この逸話が事実か
どうかについては異論があるようだ。

馬で上がったことの真実を裏付けるように、その後も、明治 15 年、愛馬・
雲竜号にまたがる曲馬師・石川清馬が、大正 14 年には陸軍参謀本部所属の軍
馬・平形にまたがった岩木利夫（参謀本部馬丁）が 1 分で駆け上がってい

る。



*3. 生駒騒動

高松藩主・生駒家で起こった御家(おいえ)騒動。4代藩主高俊(たかとし)は幼少で家督相続をしたため、外祖父・藤堂高虎(とうどうたかとら、伊勢津藩主、今治藩主で築城の名人と云われた人物で幕府の信頼が厚かった)が後見役を務めていた。外様の家臣・前野助左衛門、石崎若狭(わかさ)は高虎に取り入り、江戸家老となり、国家老の生駒将監(しょうげん)を排し権力を握った。さらに、高俊の内室が幕府老中土井利勝(どいとしかつ、佐倉藩主)の娘であることを利用し、利勝の名のもとに国政をほしいままに行うに至って、これに不満を持つ一門譜代の家臣たちと対立して家中は乱れた。

これに対し、将監没後に跡を継いだ子・帯刀(たてわき)は、前野、石崎の横暴を19か条にしたため1637年(寛永14)幕府に訴えた。評定所(ひょうじょうしょ)で何回かにわたる吟味の結果、生駒氏は領地没収され、高俊は出羽(でわ)国(秋田県)矢島1万石に転封された。前野、石崎は切腹、その一党は死罪に処された。これに対し帯刀は主人に対して忠心であるとして松江藩領預(あずけ)となるなど、反対派は軽い処分と事件は落ち着いた。

高松藩はその後幕府直轄となり、水戸徳川家出身の松平頼重が常陸下館藩から12万石で転封された。

*4. 多度津藩陣屋

陣屋の遺構はなくなっているが、陣屋の模型がある。



5代藩主高琢（たかてる）は、1838年に多度津の湛甫（たんぽ、港のこと）の大工事によって多度津港の基盤を築き、以来、幕末から金毘羅参りの船着き場として、北前船の寄港地として繁栄した。

現在も家中と呼ばれている地域は、陣屋を中心として構成された士族町で、城下町の一端を形成している。

武家屋敷・富井邸



*5. うちわの製造

幕末になり財政が逼迫すると、江戸詰の藩士たちに隣に屋敷を構えていた大村藩の藩士たちからうちわの作り方を学ばせ、国元に返し内職で作らせ、金毘羅参りのみやげものとして売るなどの策をとり、財政を立て直した。その後、うちわづくりは一般町民にも広まり始め、丸亀の名物となる。

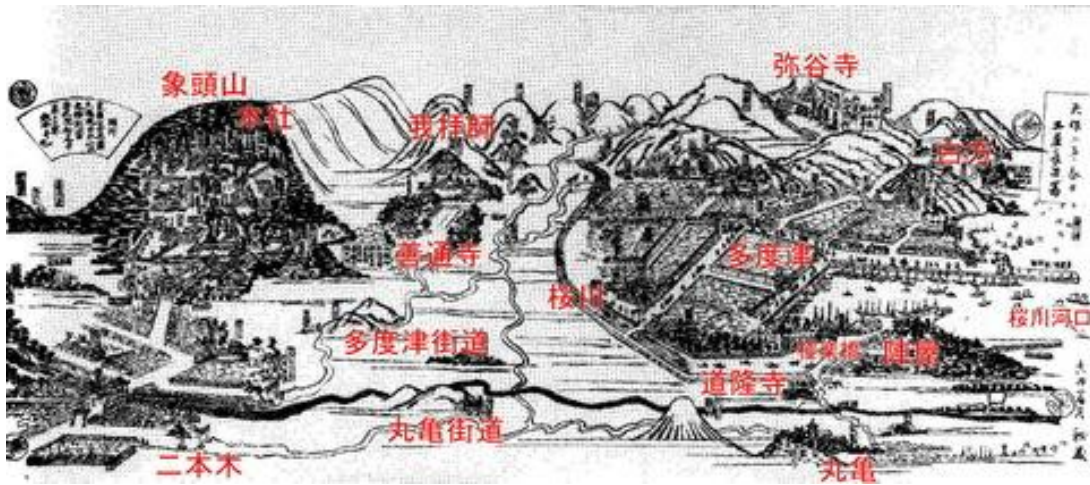
*6. 太助灯籠



江戸講中燈籠は江戸時代に金比羅街道の入口として栄えた丸亀湊に立てられた燈籠で、青銅製である。4千人近い寄進者のうち最高額を寄進した塩原太助の名にちなんで「太助灯籠」の愛称で親しまれ、現在も夜になると灯りが点されている。JR丸亀駅から北へ徒歩5分。

丸亀藩は金毘羅宮への参道である丸亀街道、多度津街道の起点を持ち、参拝客を相手とした観光業は藩財政を大きく潤していた。

金毘羅案内絵図 (1831 年)



3. 丸亀城

①特徴

丸亀城は、別名「亀山城」と呼ばれるように、標高約 66m の亀山とその周辺の平地に、外堀と内堀で幾重にも石垣を螺旋状に築いた平山城だ。



本丸を隅に置き、その周りを囲んで渦を巻くように建物が建てられていることから、渦郭式（かかくしき）の縄張（設計図）とも呼ばれている。本丸を攻めるためには、幾重にも廻らなければならない構造となっていた。

石垣には花崗岩が積み上げられ、亀山の山麓から山頂まで三層に渡り、本丸、二の丸、三の丸と段々に積み上げられている。これらの累計した高さで、日本一の石垣と言われるようになった。

特に、二の丸の石垣は「**扇の勾配**」とも呼ばれ、扇を開いたかたちのような緩やかな曲線が特徴的だ。

下から見上げると、石の要塞とも思えるほど見事な建造物となっている。石垣に対して鮮やかな白がよく映える天守は3層3階で、現存する天守のなかで最も小さな木造建築だ。

また、正面には立派な大手門や御殿表門、城へ出入りする者を見張っていたと言う番所長屋が今も残されている。

②石垣の種類

丸亀城は、石垣の城と呼ばれるほど、要塞のような石垣が見事に積み上げられた城郭となっている。

まさに、江戸時代初期に建てられた近世城郭の集大成とも言える最高水準の技術により、工夫がなされていました。また、建てられた時代によって石垣の積み方の違いなども見ることができ、技術の変遷なども伺い知ることができる。

本丸には、石垣をさらに石垣で保護するために築き上げた「ハバキ石垣」と呼ばれる工法が使用された。

これらは山崎氏時代の石垣で、石垣の上に建造物があったため、解体せずに補強したと考えられる。

ハバキ石垣



二の丸にある石垣には、拡張した跡を見ることができます。長い石と短い石を交互に組み合わせていくことで、より強固となる算木積み（さんきづみ）だ。

また、大きな石と石の間に隙間なく小石が詰められるなど、均等な美しさが保たれている。

三の丸は見事な石垣で、中でも北側は高さ 20m 以上の高石垣で、算木積みの技術の進歩で、このような美しい勾配の高石垣を築くことができるようになった。石垣の技術のひとつに切り込みハギと言われ、石を削り、加工した石を積み上げる技法がある。

また、これとは対象に自然石をそのまま積み上げるのが野面積み（のずらみ）だ。これは、南東山麓周辺で見ることができる。

三の丸の石垣



③ 丸亀城の見どころ

○ 天守



ライトアップされた天守

高さ約 15m の 3 層 3 階の木造天守だ。現存する十二天守のうちのひとつとして重要文化財に指定されている。

この天守は、1643 年（寛永 20 年）の山崎氏時代に改築され、1660 年（万治 3 年）の京極氏時代に完成した。

屋根の部分に装飾を施す唐破風（からはふ）や千鳥破風（ちどりはふ）といった意匠にも優れ、美しい姿を誇っている。

本丸は、山の最高所に築かれたため、市街を一望できる素晴らしい眺めである。

○ 二の丸

本丸を守る最後の砦である。石垣の上には番頭櫓（ばんとうやぐら）や長崎櫓など 4 棟が建ち、城壁の敵を攻撃したことが窺える。

また憩いの広場として整備された二の丸には、桜の木が植樹され、春

には桜の名所として市民に親しまれるスポットだ。

その他、水深 30m 以上にも及ぶ二の丸井戸があり、日本一深い井戸としても有名。現在も水を湛えている。

○ 大手一の門

正門にふさわしい威風堂々とした作りの櫓門（やぐらもん）がある。

1610 年（寛文 10 年）頃に建築され、**重要文化財**に指定された。

当時は藩士が太鼓を鳴らして刻（とき）を知らせていたことから、太鼓門とも呼ばれている。櫓の中に入れば、櫓の太い梁が組まれ、重厚感があり、当時の様子を物語ってくれる。



○ 大手二の門

大手一の門より手前にあるのが大手二の門で、城郭に入る最初の入り口である。

大手一の門との間に枳形（ますがた）と呼ばれる敵を防御するための四角い空間が作られている。

1670 年（寛文 10 年）に再建され、**重要文化財**に指定。門構えは高麗門という格式の高い門となっている。



④丸亀市立資料館



1972 年（昭和 47 年）に建てられた資料館である。歴史資料、農耕具などの民族資料などを展示。最後の丸亀城藩主だった京極氏の史料や郷土に関する文書、書画なども多数、収蔵されている。

改築の際に幕府に提出したとされる丸亀城の木型模型の写しは、大変貴重である。

4. 伝説

○豆腐売りの人柱説

丸亀城築城の際、石垣の工事が難航したため、人柱を立てることとなった。雨が降る夕暮れ、工事現場付近を通り掛かった豆腐売りが捕えられ、無理矢理に人柱として生き埋めにされてしまった。豆腐売りは雨で豆腐が売れないため、普段は通らない城の付近を偶然通り掛かったのであった。その後、石垣の工事は完成したが、それ以来、雨が降る夜にはその石垣の辺りで「と一ふー、と一ふー」という豆腐売りの声が聞こえて来たという。

○石工名人の羽坂重三郎

石垣は名人と謳われた羽坂重三郎によるもので城主（生駒親正という説や山崎家治という説がある）に「見事である。この石垣に登れるものはあるまい」と感嘆された。しかし重三郎が「私ならば尺の鉄棒があれば登れます」といって短い鉄の棒を使って登ってしまった。これを見た城主は重三郎が敵と通じることを恐れて嘘の井戸の調査を命じて井戸に埋め殺してしまった。

5. その他

○丸亀お城まつり

亀山公園（丸亀城跡）とその周辺で 5 月のゴールデンウィークに開催されているまつり。主催は丸亀お城まつり協賛会。丸亀城天守の解体復元工事が完成し、

国の重要文化財に指定された 1950 年に第 1 回を開催。前夜祭として日本の太鼓まつり、丸亀観光親善大使発表会が開催されている。



丸亀お城まつり協賛会資料による

○まつりの主なイベント

- ・丸亀お城村（同日の場内イベント）
- ・全日本骨付鳥選手権
- ・全日本うどん選手権
- ・丸亀の獅子舞競演
- ・丸亀お城村 - ボランティア団体など各種団体による自主的運営でお化け屋敷、フリーマーケットなど開催
- ・丸亀城バサラ京極隊 - 丸亀婆沙羅の奇抜な衣装を身に纏い京極家歴代当主に扮した丸亀城の観光案内チームによるパフォーマンスライブ。
- ・まんでガンガン大行進 マーチングバンド、やっこ連、鉄砲隊、時代絵巻、京極隊、太鼓台のパレード
- ・海上自衛隊の入港一般公開
- ・丸亀おどりのフリースタイル大会（1 日目）、総踊り大会（最終日）

○丸亀城桜まつり



天守に映える約 700 本のソメイヨシノ。夜にはライトで照らされた美しい石垣や月灯りとのコラボレーションで、情緒あふれる雰囲気を感じとることができる。

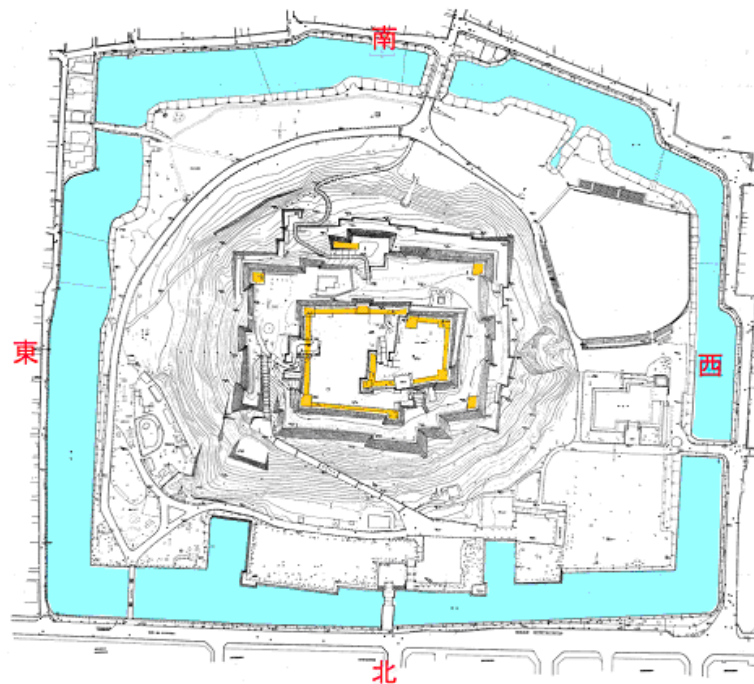


○崩落した石垣の修復



2018 年、老朽化や台風の影響とみられる石垣の崩落があった。被害があったのは「帯曲輪（おびぐるわ）石垣」と、その上部に造られた「三の丸坤櫓（ひつじさるやぐら）跡石垣」。帯曲輪石垣は西面が幅約 18 メートル、高さ約 16 メートルにわたって崩れ、三の丸坤櫓跡石垣は東西約 25 メートル、南北約 30 メートル、高さ約 17 メートルの範囲が崩落した。帯曲輪石垣の老朽化などで周囲は以前から立ち入り禁止となっており、けが人はいなかった。

オレンジ部分が修復箇所



○江戸の上屋敷と金毘羅大権現

江戸時代、江戸市中にあった大名屋敷には各藩名だたる寺社の分社・分寺が勧請されていた。月に 1 回の縁日を決めて公開されて人気を博したのが、金毘羅さんで知られる、丸亀藩の金毘羅大権現。江戸時代の後期には、久留米藩の水天宮と並ぶ大人気スポットになっていた。丸亀藩は 1660 年に金毘羅大権現を三田の上屋敷に勧請し、1679 年に虎の門に移転し、金毘羅大権現も虎の門の藩邸内に移した。その後、金毘羅参詣のブームの高まりとともに、毎月 10 日に限り金毘羅大権現の参詣を庶民に許すことを幕府に願い出て、江戸での金毘羅詣が可能となった。

下の版画は、1861（文久元）年に出版した『江戸名勝図会』の 1 枚。2 代歌川広重が描いたもので、金毘羅大権現の白い幟（のぼり）がかかる邸内に、行列をなして、押すな押すなの大盛況の縁日（10 日）だったことがわかる。



歌川広重『江戸名勝図会 虎の門』



往時の虎の門



往時の虎ノ門。現在の虎ノ門交差点（東京メトロ虎ノ門駅）周辺

○中津万象園・丸亀美術館

中津万象園・丸亀美術館は、丸亀藩主京極家の大名庭園・中津万象園と、園内にある丸亀美術館などの施設で構成された史跡名勝&レジャースポットである。京極家先祖の地・近江の琵琶湖を象った八景池を中心に、近江八景になぞらえて八つの島を配し、その島々を橋で結んだ池泉回遊式の大名庭園である。鮮やかな朱塗りの太鼓橋「邀月橋」、樹齢 600 年を超える「大傘松」、現存国内最古の煎茶席「観潮楼」など多くの見どころだ。近年は「百本の鳥居回廊」や「水蓮橋」が、映える写真の撮れるフォトスポットとして注目を浴びている。





ミレーなどバルビゾン派の作品を常設展示する丸亀美術館

参考資料

- ・ ウィキペディア
- ・ 刀剣ワールド

国宝 5 城・重要文化財 7 城 建造物特集

- ・ 丸亀お城まつり協賛会

以上